

スポーツメディカリストを育成する「スポーツ振興プロジェクト」

スポーツ振興プロジェクトは、学内の充実した施設・設備の活用と医療技術の研究・臨床、トレーナー活動など「スポーツ医療」の最前線で培ってきたノウハウを活かした「スポーツ」と「医療」の融合プロジェクトです。「豊かな自然」「施設・設備」「指導・育成」「病院・スポーツ医療・栄養管理」「スポーツ科学」の全てが揃う本学ならではの環境を活かし、トップアスリートの育成を目標としながら、医療人としても第一線で活躍できるスポーツメディカリストを育成します。また本年、「アスリートサポートセンター」が誕生。医療スタッフ、スポーツトレーナーが一つのチームとして選手のコンディショニング、競技力向上、怪我の予防、附属病院や鍼灸センターとの連携によるメディカルサポートを行います。

○スポーツ施設



陸上競技場



サッカー場



体育館



附属病院



附属鍼灸センター



総合リハビリテーションセンター



投てき場



柔道場



トレーニングルーム



アスリートサポートセンター
(コンディショニングルーム)



カフェテリア
(健康・栄養面のサポート)



宿泊可能な研修施設

○医療面他のサポート体制

強化指定クラブ：陸上競技部（男女） 女子サッカー部 バレーボール部（男女） 女子剣道部 女子柔道部

医療分野への進学に興味のある方におすすめのイベント

オープン
キャンパス

6月19日(日) 7月24日(日)
8月7日(日) 8月21日(日)

開催時間
10:00~15:00

【プログラム】
学科説明/模擬授業/学食体験/入試概要説明/
在学生と語ろう/キャンパスツアー/各種相談コーナー



大学・学部
見学会

ミニ
オープンキャンパス

午後からはスポーツイベント、
クラブ見学会等を開催します。

7月17日(日)
8月6日(土) 9月18日(日)
10月2日(日) 10月30日(日) 12月18日(日)

開催時間
10:00~12:30

【プログラム】
学科説明/模擬授業/在学生と語ろう/
キャンパスツアー/各種相談コーナー

スポーツイベント
アスリート
サポートセミナー

開催時間 13:30~15:40

○特別講義
アスリートとして心得るものにはなに？
「失敗する前に気付こう」
講演者/室伏由佳(本学客員教授)
○パネルディスカッション ほか



客員教授 室伏由佳

中京大学体育学研究所
博士課程後期終了(体育学修士)
競技歴：04年アテネ五輪出場、05年
世界陸上出場、10年広州アジア大会
銅メダル(以上、女子ハンマー投)、07
年世界陸上出場(女子円盤投)、円盤投・
ハンマー投日本記録保持者(16年現在)

ひとりの命を救うことは、何人もの命を救うこと。

YOU CAN BE A HERO.

2017年4月 救急救命学科(仮称) 設置構想中

明治国際医療大学

■鍼灸学部 [鍼灸学科] ■保健医療学部 [柔道整復学科] [救急救命学科(仮称) 平成29年4月 設置構想中]
■看護学部 [看護学科] ※設置される学科の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

(入試事務室) 〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1181 FAX 0771-72-1189 e-mail admission@meiji-u.ac.jp

一部携帯・スマートフォンでご利用になれない場合があります。

資料請求はHPから 明治国際 検索



資料請求はこちら



明治国際医療大学
Meiji University of Integrative Medicine

時間と戦い、命を救う 救急救命士を目指す

怪我や病気、事故や火災、地震や水害などの災害時に、
真っ先に現場へ駆けつける救急救命士。
その使命は、どんなに緊迫する状況下でも
冷静な判断で迅速に処置すること。
そして、目の前にある大切な命をつなぎ止める。
救急救命士は、時間と戦い、命を救う、
街のヒーローだ。



救急救命士は、命をつなぎ止めるエキスパート!

消防署に勤務し119番が入れば、救急車で現場に急行。現場から病院へ搬送するまでに応急処置や蘇生処置を行い、命を救うために全力を尽くす。

一刻を争う現場で自ら考え迅速に行動!

救急救命士が急行するのは一分一秒を争う現場。救命の可能性は時間とともに低下するため、緊迫する状況下で冷静な判断と迅速な処置が求められる。

ヒーローは体力勝負!

出勤命令があれば、どんなときでも現場に急行。多様な現場で活動できるよう、日々の体カトレーニングと健康管理は欠かせない。

「チーム医療」の一員として活躍!

病院搬送時には、医療スタッフの一員として、チーム医療の一端を担う救急救命士は、コミュニケーション能力とチームワークが求められる。

ますます高まる社会的ニーズ!

救急車の出動件数は年々増加している。現場では高度な救急処置が求められるケースが多く、救急救命士の必要性はますます高くなっている。

2017年4月、救急救命学科(仮称)設置構想中



point 1

附属病院を有する医療大学で学ぶ

病院内では、様々な職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することでチーム医療を実践しています。本学では、キャンパス内の附属病院を活かした実習を開講し、チーム医療の一端を担う救急救命士として必要な幅広い視野と役割を実践的に学びます。



point 2

海・河川・雪山・都市災害のレスキューを学ぶ

消防には消火活動を行う消防隊、救急車で傷病者を搬送する救急隊に加えオレンジ服を着て救助活動を任務とする救助隊(レスキュー)があります。本学では海上・河川・雪山・都市などさまざまなシーンでの災害を想定した救難救助(レスキュー)実習で、特殊な救助活動に役立つ知識と技術を身につけます。

ライフセービング実習



海上における水難救助法を学ぶ

ウォーターレスキュー実習



河川における水難救助法を学ぶ

マウンテンレスキュー実習



雪山における遭難、けが人の救助法を学ぶ

都市型救助実習



高層ビルの火災地震など都市型救助法を学ぶ

point 3

運動能力を高めるトレーニング法の修得

救急救命士にとって体力は重要な条件の一つ。本学では基礎体力と運動機能向上を図るトレーニング法の修得はもちろん、健康運動実践指導者やスポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員等の資格をとることもサポートします。



point 4

国家試験・公務員試験へのサポート体制

救急救命士の主な勤務先は、消防署です。そのため救急救命士の国家試験対策だけでなく公務員採用試験対策を開講するなど、万全のサポート体制も整えています。



目指せる資格と卒業後の進路

国家資格である救急救命士のほか、スポーツ関連資格としてスポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、健康運動実践指導者などの受験資格が得られます。さらに星槎大学(通信制)との連携協定により、中学・高等学校教諭一種免許状(保健体育)等が取得可能となります。

本学科で目指せる将来

消防署、救命救急センター等の医療機関等で働く
警察署・海上保安庁・自衛隊等の公務員 / 中学・高等学校の保健体育教諭他